

稲沢市告示第 1 2 4 号

地域の気候及び風土に応じた住宅であることにより建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令第 1 条第 1 項第 2 号イに適合させることが困難であるものとして国土交通大臣が定める基準（令和元年国土交通省告示第 7 8 6 号。以下「告示」という。）第 2 項の規定に基づき、告示第 1 項各号に掲げる要件と同等であると認められるものとして市長が別に定める要件を次のように定める。

告示第 2 項の市長が別に定める要件は、次の各号のいずれかに該当するものであることとする。

- (1) 告示第 1 項第 1 号に該当する住宅であること。
- (2) 前号に該当する住宅のほか、木造の一戸建ての住宅であって、アからウまでのいずれにも該当するものであること。
 - ア (ｱ)又は(ｲ)のいずれかに該当するものであること。
 - (ｱ) a 又は b のいずれかに該当し、かつ、c に該当すること。
 - a 告示第 1 項第 1 号ニ(1)に該当すること。
 - b 外壁及び軸組について、(a)から(c)までのいずれにも該当すること。
 - (a) 外壁の片面を真壁造とすること。
 - (b) 貫工法を用いること。
 - (c) 柱、はり、母屋、土台及び足固めに用いる木材は、墨付け及び手刻みによる加工を行い、かつ、伝統的な継手及び仕口を用いたものであること。

c 縁側について、(a)から(d)までのいずれにも該当すること。

(a) 奥行きが 0.9 メートル以上であり、かつ、幅が 3.6 メートル以上であること。

(b) 高さが 1.7 メートル以上であり、かつ、幅が 3.6 メートル以上である開口部（開口部（高さが 1.7 メートル以上であるものに限る。以下同じ。）が複数設けられている場合にあっては、幅が 3.6 メートル以上である 1 の開口部又はそれらの幅の合計が 3.6 メートル以上となる 2 以上の開口部）が室内側及び室外側にそれぞれ設けられているものであること。

(c) 室内側の開口部（開口部が複数設けられている場合にあっては、それらの開口部のうち幅が 3.6 メートル以上である 1 の開口部又はそれらの幅の合計が 3.6 メートル以上となる 2 以上の開口部）に建具が設けられているものであること。

(d) 室外側の開口部（開口部が複数設けられている場合にあっては、それらの開口部のうち幅が 3.6 メートル以上である 1 の開口部又はそれらの幅の合計が 3.6 メートル以上となる 2 以上の開口部）に複数の建具が設けられているものであり、かつ、それらの建具が多層的に配置されているものであること。

(イ) a 及び b に該当すること。

a 告示第 1 項第 1 号ニ(2)に該当すること。

b (ア) b に該当すること。

イ (ア) 又は (イ) のいずれかに該当するものであること。

(ア) 屋根（下屋及びひさしを除く。）に県産の粘土瓦を用いたものであること。

(イ) 柱、土台及び足固めに県産の木材を用いたものであること。

ウ (ア) から (ウ) までのいずれかに該当するものであること。

(ア) 軒（けらばを除く。）の出が 0.9 メートル以上であること。

(イ) 自然通風の取込みに配慮した複数の窓が設けられているものであること。

(ウ) 給湯の用に供する太陽熱集熱設備が設けられているものであること。

令和 7 年 1 1 月 4 日

稲沢市長 加藤 錠 司 郎